生産から加工までの取組みを通じた 地域発展へのチャレンジ

2016年3月16日



1. 株式会社マルハ物産について

◇沿 革

- 1958年 創業者の林 高夫氏が、岡山県にてれんこん生産を開始
- 1964年 徳島県で、れんこん加工業を創業
- 1971年 (有)マルハ物産(現(株)マルハ物産)を設立
- 2003年 有限会社マルハファーム、グループマルハ協同組合を設立
- ◇売上高約27億円

◇グループ会社

- ・有限会社 マルハファーム(農業事業)
- ・有限会社 ロードナインコーポレーション(食品加工)
- ・かれん 株式会社(スイーツ等販売事業)
- •江蘇得宝食品有限公司 (中国独資公司)
- ·河北満路華食品有限公司(中国合弁公司)

2. 生産から加工までの取組みと地域発展 (1)マルハ物産グループ 6次産業化・生産拡大の取り組み

①マルハファームの設立

徳島県のれんこんは、全国第2位の生産量を誇りますが、今では茨城県に生産量で大きく 水をあけられております。また、生産者の高齢化や後継ぎ不在などの理由により徳島県内に おいても年々耕作放棄地・休耕田が増えており、大きな社会問題となっております。

この状況を受け、徳島産れんこんの生産振興と全国へのPRのため、また、原料や加工製 品を企業・消費者へ安定して供給するため、2003年2月に【農業生産法人 有限会社マル ハファーム】を設立しました。

◇(有)マルハファーム 生産品目

・れんこん ・鳴門金時(さつまいも) ・大根 ・ねぎ 他

②生産拡大の取組みについて

まず徳島県板野郡松茂町内の、高齢のため耕作が出来なくなった生産者から1町余りの圃 場を借り受け、れんこんの栽培を始めました。

その後、当社の取り組みを聞いた耕作放棄休耕田を保有している生産者の方から次々と耕作の依頼が多く入るようになり、現在では約18町まで拡大し、県内でも最大規模のれんこん 生産農業法人に成長致しました。

2. 生産から加工までの取組みと地域発展

(1)マルハ物産グループ 6次産業化・生産拡大の取り組み

③生産振興の取組み

(株)マルハ物産と(有)マルハファームが連携し、グループ企業として農産物生産振興の取組【6次産業化事業・農商工連携事業】を積極的に推し進めています。

- ◇グループ企業の役割
- ・生産 (1次産業) → (有)マルハファーム
- ・加工・販売(2次・3次産業) → (株)マルハ物産

◇受賞歴

- ・2008年「第一回国産野菜の生産・利用拡大優良事業者表彰」生産局長賞受賞
- ・2008年 農商工連携88選 徳島県で唯一選定
- 2012年「第33回食品産業優良企業等表彰」農林水産大臣賞受賞
- ・2014年 農林水産省「平成25年度6次産業化優良事例66選」に選定

◇生産振興取組の効果

- ・耕作放棄地や休耕田の減少と、休耕田の有効利用による農地保全
- ・他生産農家からの計画的な購入による、他生産農家の収入安定・当社経営の安定
 ・地域障害者の積極的な人材活用
- 新商品の開発による市場を拡大させていく
- ・地元農産物の生産・消費拡大による地域活性化 _{p2}

徳島産れんこん 栽培風景



しろかき
 (3月~5月中旬)



 2 植えつけ (5月頃)



 ③ 浮き葉・立ち葉 (5月中旬~下旬)



④ 除草作業 (6月~)

(8月中旬~翌3月頃)



⑤ 開花(蓮華)(7月中旬~8月頃)

⑥ 茎倒し(収穫前作業)

⑦ 表土取り
 (8月中旬~)

徳島産鳴門金時(さつまいも) 栽培風景



 (1) 育苗(いくびょう) (2月~4月)



 2 畦(うね)立て (3月~4月)



 3 植え付け (4月~5月)



④ 追肥 (5月~9月)



⑤ 消毒 (5月~9月)



⑥ 収穫-1 (9月~10月)





⑥ 収穫-3

マルハ物産グループ れんこんの生産から加工・販売の流れ



マルハ物産グループ 取扱商品



国産 水煮蓮根ホール (業務用)







冷凍鳴門金時 ペースト無糖 (業務用)

p**4**



徳島産 れんこんパウダー



美馬の郷から イヌリン豊富な きくいもパウダー



国産水煮蓮根 スライス 小袋



(蓮根・鳴門金時入り)







スプレッド

2. 生産から加工までの取組みと地域発展

(2)徳島県産農産物の生産拡大による地域活性化の取組

徳島県には多くの地域資源農産物があり、これらの生産拡大を通じて地域活性化を 図るため、徳島県ならびに各地域の行政機関・地元の生産振興団体と連携・協力して おります。



ご清聴ありがとうございました。

